

令和2年度 学校評価 各学部・校務分掌部の自己評価（期末評価）

1 各学部

【小学部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1 児童の主体的な活動を引き出す指導・支援を实践する。＜努力点①、③＞		・必要な支援や手立てを行った上で「待つ指導」を心がけ、児童の主体的な行動を引き出すことができたか。 ・略案を活用し、授業展開や教材の工夫を共有することができたか。	B
2 児童が安心して安全に学校生活を送れるような指導・支援に努める。＜努力点②＞		・安心安全に学べるよう環境を整えることができたか。 ・日常生活の指導や避難訓練等の防災安全指導を通して、個に応じた指導・支援の工夫ができたか。	B
現在の取り組み	1 ・一人一人が分かって動けるよう、支援の手立てを柔軟に検討しながら授業を行うことができた。 ・略案を活用し情報を共有できたが、その都度、準備できない事もあった。		
	2 ・感染症防止の観点から健康への関心を高めるための指導をすることができた。 ・交通安全教室や避難訓練は、実態に応じて学年や学級で実施することができた。 ・新しい生活様式の中での意思表示の仕方、関わりあい方を考えて実施したが、もう少し意識できるとよかった。		
今後の対応	1 ・実態に合わせて、待つタイミングや主体的な行動の引き出し方を工夫する。 ・略案を準備し、更に共通理解を図る。		
	2 ・コロナ対策を踏まえて学習の環境を整え、授業を実施する。 ・教材の共有の仕方についてを再確認し、共通理解を図る。		

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【中学部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1 社会生活に必要な挨拶、身だしなみや清潔（感染症予防含む）を身につけられるような支援の工夫をする。＜努力点①＞		・日常生活の指導、作業学習、職業家庭の学習の中で、生徒に分かりやすい指導や掲示の工夫、生徒自身の自己評価をする際の適切な支援ができたか。	A
2 人との適切な関わりを深められるよう、自分を表現できる力を高められるような支援の工夫をする。＜努力点①＞		・自分の意思を適切に相手に伝えられる方法を獲得できるよう個に応じた支援の工夫ができたか。	B
	1 ・感染症予防の対応を含む清潔の大切さ、手洗い、消毒、うがい、着替えや更衣室内の相手との距離のとり方などの指導を分かりやすさと提示の工夫などにより丁寧に行った。 マスクの着用は、日々継続		

現在の取組	することで着用できる生徒が増えた。 ・校外の活動において、適切な挨拶や身だしなみを意識し、感染症予防に努めた行動をとるなど成果が見られた。
	2 ・今年度は、学習グループを分けたり、学部行事の内容を変更したりしたことで、例年より学部内の生徒同士の関わりが少なくなったが、身近な小集団内で、意思を伝えたり表現したりする場面が増え、関係性が深まった。 ・不適切な関わりなどが見られた際、意思確認、クールダウン、状況確認など複数の教員で連携し対応をした。
今後の対応	1 ・日常化する感染症予防の対応を身につけられるよう、学部職員で共通理解を図り指導を継続する。 ・各学習の関連を意識し、一貫性のある指導を継続する。
	2 ・生徒の発信を受け止め、対応する力を高められるよう、職員の共通理解の意識を高める。 ・人との適切な関わり方について、個に応じた指導、集団でのマナーやルールの確認を継続する。

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【高等部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1	社会生活に必要な基本的なマナーを身につける支援を実践する。＜努力点①＞	・各学年で重視するマナーについて教員間で共通理解を図り、授業や支援を行うことができたか。	B
2	安全に学校生活を送るために、様々なトラブルに対応する力を育む支援を実践する。＜努力点②＞	・ルールの遵守や余暇の過ごし方、ストレスの解消の仕方など、様々な場面を想定して授業を展開したり、保護者と連携して支援したりすることができたか。	B
現在の取組	1 ・生徒にマナーについての説明はしているが、定着が十分とは言えない。 ・ビジネスマナー講習会で外部講師の方に指導を受けることで、意識する生徒が増えた。		
	2 ・新しい生活様式、余暇の過ごし方、スマートフォンの使い方、人権教育、シトラスリボン作り等を授業で行った。		
今後の対応	1 ・「5分前行動」…次の活動がスムーズに行えるような準備をするように促す。 ・「丁寧な言葉遣い」「人と接するときの態度」…様々な場面を想定してやりとりを行う機会を設定し、指導を行う。		
	2 ・身近な出来事や話題を取り入れて授業を行うことで生徒の関心をより高め、トラブルに対応できるよう指導を行う。 ・社会生活を見据えて、学校、実習先等その場に応じたルールを意識した過ごし方ができるよう指導を積み重ねていく。		

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

2 校務分掌部

【教務部】

今年度の目標		評価の観点	評価
	1 短時間で有意義な会議や打合せを行う。 ＜努力点③＞	・情報収集や要点の整理をして事前準備ができたか。 ・伝達したいことと議論したいことを分けて効	B
	2 職務内容全般において、昨年度の課題を改善し、より良くする方法を模索又は実行する。	・昨年度の課題解決に向けて取り組むことができたか。	B
現在までの取組	1 ・事前の準備や係会での検討に回すことで会議が短時間でできた。 ・介護等体験の実施に当たり、新型コロナウイルス感染症対策のため変更を余儀なくされたが、情報の収集や要点を整理し、変更点について整理してから打合せ（会議）が実施できた。 ・業務内容によっては係の裁量を増やすことで、打合せ等の時間を短縮することができた。 ・年度当初の説明などを、書面の配布や校内掲示板・Teams による連絡で係が集まりをもたずに短時間で打ち合わせを行うことができた。		
	2 ・年間行事予定表の職員室（ホワイトボード）掲示の周知・活用が定着した。 ・介護等体験で、大学との書類のやり取りを事前に行うことで、効率的に業務を行うことができた。また、2日間同じ学級に学生が入ったことにより、感染症対策として良かった、 ・出席簿において、新型コロナウイルス感染症対応のために変更になった学部行事等の入力、入力の仕方をその都度係で伝えたり、各学部の係が入力したりして対応した。 ・教科書配布を複数で確認を行うことで正確に配布できた。 ・各学部・分掌部の購入希望用紙に予算と使用歴、残額などを分かりやすいように表示した。 ・校内研修はコロナ禍により内容や実施の有無について見直しを行い、他部との連携を行った。 ・パソコン点検簿等の業務内容を見直した。		
今後の対応	1 ・会議のやり方の再検討、意見交換の方法、Teams の組織的な活用、事前調整の必要性、最終確認、決定事項の発信などの課題。（朝の職員打合せや職員会議、場合によっては臨時の運営委員会など） ・パソコン上や紙面上で共通理解ができる場面があるとよい。 ・資料を事前に配布し意見しやすい環境、決定事項を掲示板や Teams で周知する環境を整備する。		
	2 ・印刷室の管理等、係だけでなく教務部内や学校全体で担当を検討する。 ・正確な教科書供給のため複数で確認を行う。提出書類等は迅速に正確に対応する。 ・入力シートに残額表示を入れるようにする。また、消耗品等の希望集約方法の見直しを図る。 ・校内研修の精選と実施方法、日程の調整を検討する。		

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【学習指導部】

今年度の目標		評価の観点	評価
	1 授業研究会や事例検討会、情報交換会を推進し、教育活動の充実を図る。＜努力点①＞	・各学部との連携を図りながら事例検討会や各教科等担当者制会議における情報交換等を行い、教育活動の充実に努めることができたか。	B
	2 各学部と連携を図りながら、年間指導計画の整備や校内研究を行う。＜努力点①＞	・各学部との連携を図り、各教科の段階的な指導内容を踏まえた系統性のある年間指導計画の整備、新学習指導要領のポイントを踏まえた教育活動全体の充実に努めることができたか。	B
現在の取り組み	1 ・事例検討会や教科等担当者制会議において、貴重なアドバイスや情報交換をすることができ、大変良かった。共通理解を図ったり、学部間の段階的な指導についても話し合ったりすることができた。 ・学校課題研究、教育課程集会、各教科等担当者制会議とそれぞれで研究を進めるため、班にもよるが負担感が大きい。 ・外部からのメディアを借りて人権教育の授業を行った。		
	2 ・年間指導計画の整備を行うことができた。一方で、新学習指導要領の理解が不十分である。 ・感染症対策で実施できない内容もあったが、年間指導計画の目標や内容を見直すことができた。 ・教育課程集会の研究は、6か年研究のためテーマや課題の共通理解をしながら進めていく必要がある。		
今後の対応	1 ・各教科等担当者制会議の各班の課題について、前年度に確認しておけるとよい。 ・各教科等担当者制会議の回数の課題はあるが、教育課程集会の研究を踏まえ次年度も今年度同様に実施する。 ・人権週間は、他校と教材の貸し出しが重なってしまうことから、人権教育教材を学校で購入できるとよい。		
	2 ・今年度の反省を次年度の指導の参考にしながら、年間指導計画の目標、内容の見直しや検討を行う。 ・次年度、中・高等部は、合わせた指導においても新様式での年間指導計画作成に取り組む。 ・新学習指導要領の理解を図る。 ・次年度は、教育課程集会の研究を校内研究として位置付けたい。		

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【児童生徒指導部】

今年度の目標		評価の観点	評価
	1 児童生徒が安心安全に学校生活を送れるように、安全指導の充実を図る。 ＜努力点③、④＞	・交通安全や社会的マナーの向上、児童心得や生徒心得、生徒規則の励行に努め、必要に応じて適切に外部機関と連携することで、安全指導の充実に努めることができたか。	B
	2 児童生徒が安心安全な学校環境の整備をめざし、教職員相互の協働体制の強化を図る。 ＜努力点②、⑤＞	・スクールバスの適切な運行や登下校の安全確保と指導、校内の安全整備に努めることができたか。	A
	1 ・全体指導を行っていた場面では、感染症対策として学年、学級毎の小集団で行ったことで、個々の実態に合った指導ができた。掲示物やイラストで分かりやすく伝えることができた。また、学級内、学部		

現在の取組	内で統一された意識によって指導を行うことができた。 ・問題行動等の未然防止のため、授業や学校生活の中で規範意識を高められる取組を行ってきた。 ・交通安全教室を各学部工夫して行った。立哨指導、駅舎立哨指導等で、公共のマナーや安全意識を高められる指導を行うことができた。
	2 ・感染症予防、拡大防止のため、研修方法、行事などの改善が必要なことがあった。 ・教員間、介護職員と連携が進み、スムーズな乗車、運行ができた。 ・精神的に不安定な状態のとき、担任等の対応できる教員が乗車し対応できた。 ・スクールバスの消毒（2便制のとき）、増便対応、保護者や事業所の自家用車の誘導等、共通理解を図り安全、適正に行えた。 ・保護者からの相談に対しては、担任と内容を確認し適切に対応できた。 ・校内で連携を図ったうえで、保護者や関係機関と連携を勧めることができたケースがあった。
今後の対応	1 ・学年や学級で共通意識をもって指導していく必要がある。 ・これまでの活動を見直し、必要なことを工夫して実施できるようにしていく。
	2 ・周囲との共通理解を図り、問題解決に取り組むことが研修機会にもなるので、いじめ、問題行動の未然防止、早期発見に取り組んでいく。

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【進路指導部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1	小中高の連続性を踏まえた進路指導の取組を推進する。＜努力点①③＞	・教員が進路指導の取組を共通理解し、取り組むことができたか。 ・研修や資料等により、教員に十分な情報提供ができたか。	B
2	保護者への進路支援を図るため、情報の提供や進路相談を充実させる。＜努力点④＞	・実習報告会やホームページ等での情報提供及び個別の相談支援を充実させることができたか。	A
現在の取組	1 ・必要に応じ、部長と担任が連携しながら個別相談を行うことができた。 ・できる範囲で個別懇談等の機会を設け、進路に関する説明を行った。		
	2 ・「福祉サービス事業所ガイドブック」は進路選択の参考になった。 ・進路だよりやホームページで、保護者に向けた情報を発信することができた。 ・実習先の確保等について、個別対応を行いながら適切な支援をすることができた。 ・感染症対策を行いながら、できる範囲で情報提供を行い、保護者の不安を解消することができた。 ・高3生の進路決定までの流れについて、保護者からの質問に適切に対応することができた。		
今後の対応	1 ・「進路だより」の内容を精選し、保護者にとって有益な情報提供に努めていく。 ・学部間で、保護者に対しての進路指導について連携を深める必要がある。		
	2 ・その時々々の社会情勢に応じて、計画立案することが求められる。 ・中学部卒業後の進路について、本人の実態に合ったところに進めるよう、進路相談を充実させたい。		

・実習の様子について、保護者に伝達する方法を工夫する。(報告会が行えない場合等)

A : よくできた B : おおむねできた C : あまりできなかった D : できなかった

【健康指導部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1	児童生徒が安心・安全に学習できる環境を整え、共に、防災安全教育の充実、実践を図る。＜努力点②＞	・災害時を想定した避難訓練や引渡し訓練の充実のための準備、備蓄品（クラスの備蓄品を含む）の管理及び周知徹底を図ることができたか。 ・安全点検や衛生管理の充実を図り、安心・安全な環境作りに努めることができたか。	B
	2 教職員一人一人が協働意識を持ち、保護者・地域と連携を密にして健康の保持増進に対する理解と啓発を進める。＜努力点②③＞	・学校生活における安全管理及び保健指導、アレルギー対応等における共通理解と啓発を繰り返し行うことができたか。 ・保護者と連携を図りながら「食育チャレンジ推進事業」を計画的に進めることができたか。	B
現在の取組	1 ・備蓄品の管理を生徒と確認しながらできた。 ・毎月の安全点検では、速やかに対応し安全な環境作りができ、大きな事故を防ぐことができた。 ・新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、できる範囲で防災訓練を実施することができた。 ・避難訓練を計画し、実施に向けて進めている。実施することで新たな児童生徒の実態を知る機会や、教職員の意識を高めるきっかけとしたい。 ・防災学習（もしものときの給食を含む）で、災害や備蓄について周知できた。 ・新型コロナウイルス感染症の予防について、係で協力しながら対策に努めて給食を実施した。また、児童生徒の衛生に対する意識が高まった。		
	2 ・プール指導はコロナウイルス対策として実施しなかった。 ・持久走大会は、各学部の授業で記録会等のまとめの授業として代替えし、感染症対策などに配慮しながら安全に実施することができた。 ・アレルギー疾患対応研修やアレルギー対応委員会で、対象児童生徒の実態やエピペンの使用方法、ヒヤリハット事例等の共通理解が得られた。 ・小2、小5、中2、高1の児童生徒を対象に、年2回食育チャレンジシートとアンケートを円滑に実施でき、食育の啓発につながった。		
今後の対応	1 ・安全点検を引き続き行い、点検項目については定期的に見直しを行う。 ・保護者、教職員双方の防災意識の向上に向けた方策を検討する。 ・新しい生活様式を踏まえた行事等の実施方法を検討する。 ・コロナ禍における安全対策を徹底する。		
	2 ・プールの工事終了後、使用や清掃などについての変更点を共通理解する。 ・来年度のプール指導は、感染状況によって実施の有無を決定する。 ・持久走については、学部会で各学部の意見をとりまとめ、方向性を決定する。 ・アレルギー対応について、教職員や保護者等との連携を図る。 ・食育チャレンジシートの結果をたより等で活用し、家庭への啓発を推進する。		

A : よくできた B : おおむねできた C : あまりできなかった D : できなかった

【地域支援部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1 地域が必要とする情報を把握し、適切に対応するように努める。＜努力点⑤＞		・市町教育委員会等の関係機関との連絡を迅速に行い、体験学習等に取り組むことができたか。	A
2 早期教育相談や地域連携について、共通理解を図り、資質の向上に努める。＜努力点③＞		・係内や校内での研修等を行い、教員の資質向上に努めることができたか。	B
現在までの取組	1 ・9月に①小学部（年長児）、②小・中学部、11月に③高等部での体験学習を計画し実施できた。 ・小学部10件、中学部2件、高等部1件と例年より個別での体験学習や教育相談が多かった。対応を各学部主事を中心に計画し、取り組むことができた。		
	2 ・早期教育相談や地域連携に関する活動は例年と同じように実施することは難しかったが、係内で共通理解を図り、取り組むことができた。 ・早期教育相談の初回相談時には2名で対応した。実際の相談の流れや保護者、幼児への対応を知ることができた。 ・今年度中止となったボランティア養成講座や公開授業について、昨年度までの内容や学校の様子をホームページに掲載し、地域への情報発信を行うことができた。		
今後の対応	1 ・市町教育委員会等との連携を今後も継続していく。		
	2 ・早期教育相談や地域連携についての情報や資料等を教員間で共有し、取り組んでいく必要がある。		

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【渉外部】

今年度の目標		評価の観点	評価
1 保護者（役員会、理事会、各種委員会、地区活動など）との連携を十分に図り、保護者の主体的な活動の推進をする。＜努力点④＞		・保護者との情報交換や連携を密にして、各課題を洗い出し、改善することができたか	B
2 特教振の担当校として、円滑に会の運営を行う。＜努力点④⑤＞		・関係機関との連携・調整を正確かつ迅速に行い、運営実施することができたか。	B
現在までの取組	1 ・新型コロナウイルス感染拡大により、4月以降PTA活動が行えていない。PTA総会は、資料配付をもって総会に代え、保護者に承認を得た。また、臨時役員会を実施し、役員と相談しながら、新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先にした令和3年度に向けたPTA活動について、検討を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大の中、行事の中止や変更があったが、その都度各方面と連絡を取り柔軟に対応できた。		
	2 ・特教振事務局として、新型コロナウイルス感染症対策等について協議を行い、主担当者を中心に、計画的・円滑に業務を進めることができた。また、他校との相談調整をしながら、迅速に事務局運営を行うことができた。		

今後の対応	1 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応を踏まえ、安心安全に活動できるPTA活動のあり方を模索していく。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況がどうなっていくのか見通しが立たない中で、様々な状況を想定して準備していく必要がある。
	2 ・次期事務局校との引き継ぎを十分に行い、代表者会の構成メンバーになっている前事務局校としての役割を行う。

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった

【特別活動部】

本年度の目標		評価の観点	評価
1	安全で円滑な活動の運営と児童生徒の主体的な活動の充実を図る。 ＜努力点①②＞	・より効果的な活動集団の形成や十分に安全に配慮した環境整備が行われるよう計画したり、児童生徒の主体的な活動を促す支援を工夫したりすることができたか。	B
2	各学部や各係と情報共有することで、課題を把握し各活動の充実を図るとともに、その成果を情報発信するように努める。 ＜努力点③④⑤＞	・活動の計画・実施にあたって連絡を密に行い、課題を把握した上で活動に取り組んだり、その成果を校内掲示板やHPで情報発信したりすることができたか。	B
現在の取り組み	1 ・感染症対策を十分に行いながら工夫して計画し、安全に実施することができた。活動が制限される中でもできる限り達成感をもてる取組を行うことができた。 ・MYタイムではグループ分けをして取り組んだり、ましこ祭では校内テレビ放送で全校での活動を共有したりすることができた。 ・様々な活動や行事が変更になり主体的に活動する時間が制限されたが、例年とは違う内容でも一生懸命取り組んでいる児童生徒の様子が多く見られた。		
	2 ・各学部や各係と連絡調整しながら円滑に活動を進めることができた。 ・行事の中止や変更の連絡や活動の様子などをその都度HPで情報発信することができた。 ・校内掲示板を活用して児童生徒会役員のメッセージや活動の感想を掲示し、児童生徒がお互いに情報共有する取組ができた。		
今後の対応	1 ・今後も従来通りに実施できないことが考えられるので、今年度の実施方法を引き継ぎ、反省や改善案を生かせるように十分に検討する。 ・引き続き感染症対策を十分に行い、新しい生活様式に対応した活動を実施する。また感染状況に応じて臨機応変に対応し、児童生徒が安心して学習できる環境を整える。		
	2 ・引き続き職員間の連絡を十分に行うとともに、Teamsをさらに活用して情報共有する。 ・今後も校内掲示板やHPを活用して積極的な情報発信に努める。		

A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった